

路上生活者の個人史

第 15 回

竹中尚文

清水 孝三 氏(仮名)

1960 年生まれ 64 歳

私は昭和 35 年、愛知県の岡崎市で生まれました。両親と 2 歳年下の弟がいて、4 人家族で成長しました。弟が生まれてすぐに、名古屋市に引っ越しました。父親は会社員でした。名古屋で小学校、中学校、高校を卒業しました。大学は一流と呼ばれる所を卒業しました。就職も大手の会社でした。

入社して、大阪支社に転勤になりました。30 代半ばでうつ病を発症しました。会社での人間関係も原因の一つかもしれません。元々、私は人間関係を巧く計れませんので、それが仕事で

もできるようになりました。そうすると会社に居づらくなり、退職して名古屋に帰りました。

結婚？ 結婚はしていません。名古屋に帰ってからはアルバイトをしていましたが、次第に仕事をするのも難しくなっていました。両親がいたので、そうした私を支えてくれました。私が 50 代前半の頃に、両親は相次いで亡くなりました。

両親が亡くなってから、私は大阪に来ました。土地勘もあるので、西成のあいりん地区で暮らすようになりました。西成では日雇いの仕事もありますしね。

60 歳を越すと、日雇いの仕事口も少なくなってきました。だ

から、こういう食糧支援の所で食料をもらっています。それとあいりん地区の特掃*で日銭を稼いでいます。それで月に6万円程を稼いでいます。ドヤが月に4万円ほどかかるので、なんとか生きています。

生活保護はもらいません。生活保護を申請すると2歳年下の弟の世話になりなさいといわれます。弟も有名大学を卒業して、一流会社に勤めて管理職という地位に就いています。弟は「おまえは、気が弱い奴だ。それで両親に迷惑をかけて、情けない奴だ」といいます。絶対に弟の世話になりたくありません。また、私のことを心配するような弟ではありません。だから、生活保護は申請しません。

身体が動かなくなった時のことを考えると、ものすごく不安になります。先のことを考えると、不安になります。でも、私の周りには同じような人がいっぱい居ます。みんな頑張っているんで、元気をもらいます。みんなは、私の弟のように批判をしません。絶対にしません。

*特掃：高齢者特別清掃事業の略称。大阪府と大阪市が予算を出し合って、建設現場等で体力的に働けなくなってきた高齢者を対象とした軽作業で日給を払っている。具体的には、公園等の除草や道路掃除や幼稚園の塗装等の仕事がある。

ホームレスの人たちには、うつ病がきっかけでこの世界に来たという人が少なくありません。とっても思い詰めたこわばった表情でやってきます。しばらくすると、柔らかい表情を取り戻していく人が多くいます。ホームレスになって「とりあえずは、良かったね」といいたくなるような表情です。